

第3回 伊勢市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録（公開用）

1. 日時 平成27年4月20日 月曜日 午後7時～午後9時
2. 場所 伊勢市役所 本庁舎 本館4階第2会議室
3. 出席者
 - (1) 委員出席者
筒井委員、上井委員、河村委員、加藤委員、森本委員、大西委員
 - (2) 市出席者
中川情報戦略局長、浦井情報調査室長、中川情報調査係長、中村主事

4. 議事

- (1) 今後のスケジュールについて

市

- ・今後のスケジュールについて説明した。

委員

- ・市民意見交換会の規模はどのようなものか。議会（総務政策委員協議会）への提案はどの辺まで進められているのか。

市

- ・総務政策委員協議会への報告は、7月が初めてとなる。その後に市民意見交換会をさせていただき流れとなる。意見交換会は、4箇所（本庁管内と、二見、小俣、御園）それぞれ一箇所ずつを予定している。

委員

- ・総務政策委員協議会への中間報告と素案報告の中身は同じと理解してよいか。

市

- ・第4回目にお示しするたたき台について、検討委員会でご意見をいただき修正したものを第5回目にお示しし、それをもって総務政策委員協議会への中間報告と市民意見交換会をさせていただく。
- ・第6回目、第7回目で目標値や用途別などのテーマを絞ってご意見を頂戴し、肉付けされた形のもので11月の総務政策委員協議会に素案報告ということになる。

委員長

- ・総合戦略等の進捗状況も参考資料として我々に提供されるのか。

市

- ・今のところ当検討委員会にお示しすることは考えていない。

委員長

- ・ご異論無ければ、変更後のスケジュールで進めさせていただきことでよろしいか。

委員

- ・異議なし

(2) 前回の振り返り

市

- ・第2回委員会でいただいた意見への今後の対応について説明した。

① 「数値目標」について

〈いただいた意見〉

- ・インフラの数値目標が掲げられていない。数値目標に掲げないにしろ、長期の修繕計画を立てていくべきでは。
- ・白書には「40%の削減が必要」とあり、原案では15%と半分にも満たない目標はいかかなものか。
- ・どの程度の数値目標が適正なのかは分からないが、目標設定をすることが大事。
- ・目標値は床面積よりも金額で示した方が分かり易い。

〈意見への対応〉

- ・数値目標に関しては、委員の皆様から多くの意見をいただいております、それらに十分に対応させていただくためには、もう少し時間をかけて検討していきたい。

② 「水道の耐震化」について

〈いただいた意見〉

- ・現状と今後の見通しを掲げるべきでは。

〈意見への対応〉

- ・担当部署に確認したところ、現状としては、水道事業基本計画に基づき老朽管更新工事や他事業により、支障となる管路の布設替の際に耐震化を進めているということ。今後、そちらの担当部署において耐震化の計画を策定する予定。
- ・上水道に関しては、この水道事業基本計画が公共施設等総合管理計画の個別施設計画の位置づけとなる。今後用途別の方針を掲げる際には、これらの個別施設計画との整合にも留意しながら、耐震化などの方針を掲げていきたい。

③ 15ページの「イメージ図に関して」

〈いただいた意見〉

- ・今後の投資的経費の見込み（イメージ図）をインフラも含めた1.2倍としている。一方で白書では同様の数値が公共施設のみで1.6倍としていた。目標値を公共施設のみで掲げるのであれば、白書と同様に公共施設のみを対象としたイメージ図にするべきでは。
- ・新規整備を今後予定しているのに「新規整備を行わないと仮定しても」という言葉を入れることはいかかなものか。
- ・課題として1.2倍と掲げているが、その数値を掲げることで目標がぼやけてしまわないか。

〈意見への対応〉

- ・全体の校正等を見直して、イメージ図については、課題から次の目標値設定への流れがきちんとつながるような形となるよう検討していきたい。

④ 「天秤のイメージ図」について

〈いただいた意見〉

- ・「財政負担の軽減及び平準化」と「安全で適正な公共サービスの提供」を天秤にかけるという意味にもとれるため検討をお願いしたい。

〈意見への対応〉

- ・「財政負担の軽減及び平準化」と「安全で適正な公共サービスの提供」をバランスよくやっていく必要があると考えて天秤のイメージ図を採用したが、天秤にかけるという意味にもとれるので削除する。

⑤ 「財政負担の軽減及び平準化」

〈いただいた意見〉

- ・平準化についての説明を入れていただきたい。

〈意見への対応〉

- ・何をどのようにして平準化を図るかについて、わかりやすい表現となるよう工夫する。

⑥ 原案1 ページ「何らかの取組みが急務」について

〈いただいた意見〉

- ・長寿命化と施設の統合という2本柱を冒頭にもってくるべきでないか。

〈意見への対応〉

- ・具体的な表記に改めさせていただく。

⑦ 積み立てについて

〈いただいた意見〉

- ・マンションの長期修繕計画に基づく積み立てを例に、平準化を図るために市でもそのようなことができないか。

〈意見への対応〉

- ・財政担当部署の見解は、「設置することは可能であるが、それには積立額がいくら必要であるとか、何を財源にしていくとか、いつまでにどの程度の積立額が必要である等をきちんと整理したうえでないといけない。」ということだった。
- ・老朽化対策のための基金の設置について検討していくといった記載については、今後、担当課とも協議し検討していきたい。

委員

- ・数値目標は、床面積と金額と両方で示したほうが分かりやすい。
- ・最初に削減しなければならない目標数字があって、それに向かって削っていくというものではないか。
- ・最初に数値目標を決めたほうが、やりやすいのではないか。

- ・水道の耐震化について聞いたかったことは、それを基本計画にどのように載せるかということ。
- ・なんらかの取組みについては、長寿命化と施設の統廃合などということで、統合だけではなくて廃合もということが言いたかった。

市

- ・委員の皆様からいただいたご意見を反映していくには、構成等も見直すことになるのではないかと思う。
- ・「なんらかの」という抽象的な表現は改める。

委員

- ・床面積と金額と両方あったほうがいい。
- ・床面積を 15%、40%削減したら、本当に 42 億 6 千万円が削減されるのか。目標はやはり 42 億 6 千万円をどうするのかということ。床面積自体を目標値から削ったほうがいいのではないか。
- ・床面積というのは、前の白書が根拠になっていると思う。
- ・金額の根拠を出すということになると、また別の資料づくりにかなり時間を要するのではないか。床面積と金額はある程度比例しているという考え方でよいのではないか。
- ・比例しているのならいい。

市

- ・床面積は施設ごとに単価が違う場合があるので、床面積を 40%削減したら、目標とする費用が削減できるかといったらそうではない。
- ・金額ベースで示すほうが一般の方にはわかりやすいが、それは非常に難しい。他市町の公共施設等総合管理計画では、一般的には床面積で示していることが多い。
- ・金額ベースで示すことが可能かどうかも含めて検討したい。

委員長

- ・金額というのは経費やコストということで、床面積はサービスの提供量の指標と言えるのか。ただ床面積があればいいという話ではなくて、利用者の利用率というのがないとサービスの提供がどれくらいかはわからない。
- ・指標としてコスト面とサービス提供と両方あるが、数値化できるような指標があれば、探していただいてはどうか。

委員

- ・公共施設一覧の 516 施設のメンテナンス費用というのは、いつの時期にどれだけコストがかかるのか、細かく把握するのは難しいだろう。

市

- ・各課は、管理している施設が長期的なスパンで、いつにどの程度費用がかかるというのまでは把握し切れていないというのが現状であるため、更新資産ソフトなどを活用して推計し

ている。

委員

- ・516 施設しかないのであれば、個々に叩いていけば金額は出るのではないか。

市

・民間と違い、市の普通会計にはそういった台帳がありません。病院や上下水道など企業会計の場合は固定資産台帳がすぐに出せるが。

委員

- ・各施設を以後 30 年使用するのにどれだけのコストがかかるのかは、建設のプロにお願いすれば、資産ソフトを使わなくても総費用が現実に出てくるということではないのか。
- ・市側に個別の施設の修繕計画が無い限り、それを試算しようとしても業者も試算できないと思う。だから用途別のときに、「長期修繕計画を立てていきますよ。」というようなものを提示して、初めて一個一個の修繕計画を出していく作業ができるのではないか。
- ・本当に 42 億 6 千万円が実際にかかるのか、もしかしたら、もっと金額が高くなるかもしれない。
- ・改修の単価については、結構いい値段の単価が入っていると感じる。
- ・土台が崩れると根本的な部分も崩れていく。
- ・大きな建物だと空調を直すだけで 1 億円ぐらにかかると、今の行政は壊れてからしか修理しないので、その積算は難しいと思う。
- ・要は、そういう意味で計画的にしていこうというのが、この総合管理計画である。

委員長

・516 施設の修繕費用について、試算ソフトやシミュレーションの結果はどの程度反映されているのか。伊勢市の現状にあった数値が出ているのか。

市

- ・修繕計画の中で実際に積上げた数値と、こちらの試算ソフトを使って出した数値とどれだけ違いがあるかということまで見にいければよいが。
- ・試算ソフトの数値が現状とどれだけ離れているのかという点を見たうえで、数値目標を立てていかないと、これまでにいただいたご意見には対応できないのではないか。

委員長

- ・全貌は見れないかもしれないが、部分的な検証というのはいかがでしょうか。

市

- ・前回、委員より庁舎改修 15 億円という話をいただいたが、それについてはこの試算ソフトで実際庁舎の改修がどの程度見込まれているのか計算したところ、大体 16 億円ぐらいで、大きな違いは無いのかなという印象。
- ・細かく施設を見ていくと、ぜんぜん状況が違っていたりするので、現状と試算ソフトで出

している数値となるべく近いものにしていき、そこから目標値のようなものを掲げていくことにつなげていければいいと考えている。

委員

・前の計画の耐震化とか長寿命化とか安全、予防とか、このあたりを整理するのか。

市

・この部分もたくさん意見をいただいているため、見直さなければいけないと考えている。

委員

・一番最初にいただいた基本方針がかなり変わるのか。

市

・基本的な部分では変わってこないと考えている。

委員長

・第二回検討委員会の振返りについては、よろしいでしょうか。

委員

・異議なし

(3) その他 他市事例の紹介

市

・資料に基づき他市事例（施設の複合化、転用など）について紹介（記載省略）

委員

・複合化については、伊勢もこのような形になれば市の負担も少なくなるし市民サービスも低下しないと思うが、これまでのような国の縦割り横割りの問題はないのか。

市

・今日この参考事例をお示ししたのは、これを必ずやるというわけではなく、今後はこういった方向性が必要だろうというところを計画に示していけたらと考えたためである。

委員

・地元の公民館は老朽化が進んでいるが、なかなか耐震が難しい施設だと思う。もし小学校が廃校になったときには、まちづくり協議会みたいなものが小学校に入ったら非常にいいと思う。

市

・学校については有効活用というか、土地利用について市内でもそういうプロジェクトを組んで検討している。

委員

- ・例を挙げていただいたが、まちづくり協議会、地域で考えてこういう風にしてきたとか、これに至るプロセスを計画に盛り込んでいかないといけないのではないか。
- ・何が地元としては必要なのか協議会のほうから提案があって、そのようにしていきなりたいだろうが。

市

- ・複合化は現実にはできるのだろうかといった考えがあっては意見も出しにくいのではないかと思ひ、例を示させてもらった。

委員

- ・空き教室だとか統廃合のあった施設を活用するのであれば、最低限ある程度の利益が上がってくるようにしないとイケない。これまでと同じように市民が使うのであれば維持管理費を行政が持つことには変わりがない。
- ・改修とか、その他統廃合とかの実施に関して、国の補助メニューはあるのか。

市

- ・国から総合管理計画策定の指針が示された後に、除却に対して補助金が出ることを示された。
- ・公共施設等総合管理計画に基づき実施される事業で、既存の施設の集約化等を行って、床面積を削減したらその分を交付税でみるといった補助が設けられた。

委員

- ・直接的に改修とかその他にかかわる補助金というのは特にはないのか。

市

- ・改修経費について具体的な補助メニューがあるか確認させていただく。
- ・先ほどの委員の意見にあった、利益を生み出すといった言葉も計画の中に入れてたい。

委員長

- ・伊賀市に携わった経験から数値目標のことなどアドバイスやご意見があればいただきたい。

委員

- ・数値目標は床面積も計算したもので全部統廃合とか施設の種類ごとに、例えば集会施設などは全部、各自治協さん、地域の方に委譲するとか市が管理しないとか、そういうところまで踏み込んで削減案を作っていた。
- ・ポイントはそれぞれの施設をどういう順序で軽減していくかということ。それぞれの施設をどんなスケジュールとかパターンで今後管理していくか。
- ・それぞれの施設でどういう風に統廃合を進めていくのかということが議論になり、そこは市に任せるといったところで議論は終わってしまった。

- ・最初に数値目標を決めたほうがやりやすいと思う。
- ・具体的に次の委員会にどのようなたたき台の案が提示されるのか。

市

- ・用途別を作っていく段階においては、施設ごとに例えば集会施設としてはこういう施設があって、施設の状況としては延べ床面積のことなどを書きながら現状と課題、今後の方針みたいなものも示していくものになると思う。
- ・最初に目標があったほうがいいのではという点については、最初の目標というのがこの総合管理計画となり、それに向かってやってくというのが個別施設計画であると考えている。
- ・用途別に今後の実施を考えていく部分と実施計画につなげていくために例えば建替えの10年前にはこのあり方を検討していきますとかいったことも、フローみたいな形でやりかたを検討した後、廃止か存続か決めて、存続の場合は今ある施設を使っていくのかと、そういったところも整理できたらいいと思っている。

委員長

- ・地域別・用途別というのは個別の具体的なものを示すようなものではないと考えてよいか。

市

- ・個別の施設の具体的な方向を示すものではない。

委員長

- ・小規模多機能自治の先進例として伊賀市と名張市があり、伊勢の23地区はまだこれからそれを見習ってということで、まだ少し温度差というか伊賀市の自治協さんほどまとまった個別の地域の要望はまだないような気がする。
- ・個別の地域要望が出るのであれば、まず数値目標をたてておいて、それから個別の住民の意見を吸い上げるということが必要だと思うが、今回の住民説明会は大きく4箇所で行うということ。

市

- ・お示しする計画が、まだ草案の程度であり、用途別の部分はおおまかな方針程度であるので、4箇所だと考えている。

委員長

- ・次回の検討委員会で出されるたたき台を見て、数値目標については個別に見る場合と用途別、地域別に見る場合など、委員会として意見を出ささせていただきたいと思う。

5. その他

特になし